



京都ゑびす神社の二の鳥居にはえびす様の福箕(ふくみ)が飾られており、投げ入れたお賽銭が入ると願い事が叶うといわれます。1円や5円だと軽いので投げるなら10円がおすすめ。福箕の下の熊手も受け止めてくれるので、何度がチャレンジすれば入る!?



ちなみに十日えびすの日には、運だめしはできません。人が多くて危ないので、えびす様の福箕に白い布がかけられています。

注目：本堂やその隣の宝物館には、合わせて10以上の重要文化財があります。

六波羅蜜寺

南門のそばの護摩堂に、まつられている弁財天は、崇徳天皇が受けたお告げによって、禅海上人が造ったものとか。高さ30cmほどの、金色の像です。

七福神の御朱印は、本堂の北側に受け付けがあります。

ちなみに、西国札所17番の御朱印は、本堂の中で、もらうことができます。

【六波羅蜜寺】

東山区松原通大和大路東入る
075-561-6980
[HTTP://WWW.ROKUHARA.OR.JP/](http://www.rokuhara.or.jp/)



「六波羅蜜寺」は、通称「六はらさん」とも呼ばれる京都市東山区のお寺です。

重要文化財に選ばれている本堂、お寺を開いた醍醐天皇第二皇子光勝空也上人像など、貴重な建築や宝物を鑑賞することができます。願いが叶う「一願石」や手書きの特製おみくじがあり、パワースポットとしても注目を浴びている場所です。

近畿2府4県から岐阜県にまでまたがる「西国三十三所」の17番目の札所となっています。

空也上人は、平安時代中期の僧侶としては珍しい特定の宗派に属さない超宗派的な僧侶でした。念仏を唱える口称念仏の祖でもある空也上人が、六波羅蜜寺の元となるお寺を京都に開いたのは951年のことです。疫病が蔓延している当時の京都で、観音様を荷車で引きながら念仏を唱え、病の人に茶を振る舞って救ったという逸話も残ります。963年には、名僧を600人ほどを集めて金字大般若経を読み、京都の街に広がる病魔を鎮めようとしたそうです。これらの出来事が起源となり、六波羅蜜寺は現在までその姿を残す寺として、弟子の代に変わっても栄えました。平安時代の末期には、寺の周辺一帯が六波羅殿と呼ばれる平家の邸宅として栄えました。平清盛や平重盛といった平家一門の屋敷が5,200余り並んでいたそうです。その後、平家の没落の際に、戦火によって本堂以外の建物が焼失。時代や将軍が変わっていく中でも、再建復興が進められ、火災が起きるたびに修復されました。重要文化財にも選ばれている本堂は、1363年に修復されたものを1969年に解体修理したものです。



六波羅蜜寺の境内には、パワースポットと呼ばれる場所がいくつもあります。境内にある大きな弁財天像のすぐ隣にある「一願石」は、訪れた人の願いを一つだけ叶えてくれると言われています。石でできた柱の上部には、回転する円盤状の石が取り付けられています。

石に書かれている黄金色の文字を正面にして、ぐるぐると三回まわします。

その際に、心の中で願い事を唱えると一つだけ叶うとのこと。



本堂の正面辺りに、牛の形をした石像が置かれています。意外と見逃しがちなこの牛は「撫で牛」と呼ばれ、撫でたところの病や怪我が治るご利益があるそうです。